

2025年12月19日掲示

2025年12月25日更新

(質問と回答を追加)

関係業者 各位

## 動画制作に関する入札依頼

■担当者：広報室 佐々木

連絡先： E-MAIL : panf@jpaa.or.jp

委託業務	弁理士紹介の動画制作（シナリオ提案・撮影・編集）
内容	<p>以下の内容で、3分程度の動画を2本</p> <p>現在、日本弁理士会では、SNS等を通じて「弁理士」という言葉自体は認知しているものの、その具体的な職務内容までは十分に理解していない層へのリーチが進んでいる。一方で、当該層が弁理士会ウェブページに誘導された際に、基礎的かつ直感的に弁理士の価値を理解できる入門的コンテンツが十分とは言えず、結果として深い理解に至らないまま離脱してしまうことが懸念されている。</p> <p>そこで本事業では、当該ターゲット層を弁理士会ウェブページ内に留め、弁理士の役割や価値を具体的かつ臨場感をもって直感的に理解させることを目的として、高品質なショートドラマ形式の動画制作を企画するものである。本動画は、弁理士のプレゼンス向上を図るとともに、ドラマのストーリーを通じて弁理士という職業への理解と興味を喚起し、弁理士非認知層に対する職業認知率の向上を狙う。</p> <p>動画の構成にあたっては、知的財産の啓蒙に偏った堅い内容とするのではなく、ターゲット層の関心を引き、最後まで視聴されることを意識したエンターテインメント性の高い表現を取り入れることを重視する。</p> <p>また、制作全体に映画的手法を取り入れ、既存のウェブ動画とは一線を画す高いクオリティと没入感を実現することで、弁理士の魅力をより効果的かつ印象的に訴求することを目的とする。</p> <p>ドラマ仕立てや弁理士非認知層へのアプローチという観点から、動画のストーリーは一</p>

	<p>つとし、前編（約3分）・後編（約3分）の2本構成とする。両動画をすべて視聴することで初めて内容が理解できる構成とし、視聴者の完全視聴を促す設計とする。</p> <p>なお、予算の制約を踏まえ、シナリオ原案、出演者およびロケーション（前編 S1 カフェ 東京都渋谷区）については、原則として当会が準備する予定とする。撮影日数は1日とする予定。受託者には、これらを前提としたシナリオ提案、撮影および編集業務を中心に依頼する。</p> <p>※シナリオ提案について 添付のシナリオドラフトを基に、大がかりな撮影とならず、1日で撮影可能かつ実現可能となるようにロケーションやシナリオを提案いただきたい。</p>
提供データ	本動画のシナリオドラフト
納品物	・動画データ
納期	2026年2月末
選定基準	総合評価落札方式
提出書類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画書</li> <li>・見積書</li> <li>・シナリオ（提供したドラフトを修正したもの）</li> <li>・会社概要（記載必須事項(1)従業員数・資本金、(2)動画制作業務年数、(3)類似業務の実績（件数も記載）、(4)当会または官公庁との契約実績）</li> </ul>
提出期限	2026年1月6日（火）正午まで
提出先	<p>〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-6 東京俱楽部ビル 14 階      日本弁理士会広報室 佐々木、中村 宛      郵送もしくは上記住所の受付に設置する入札箱へ投函のいずれかの方法で提出ください。</p>
スケジュール	<p>2026年1月15日（木） 結果のお知らせ（予定）</p> <p>2026年1月下旬 打合せ（予定）</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入札結果に関わらず全応札者にご連絡いたします。</li> <li>・落札額等のお問合せにはお答えできません。ご了承ください。</li> <li>・新規の事業者様が落札した場合は反社会的勢力との関係がないことを示す誓約書（当会指定様式）をご提出いただきます。</li> </ul>

シーン1：カフェ（現在・昼）

BGM: 穏やかなカフェのBGM / 環境音

Cut No.	画面構成 (Picture Description)	内容・動き (Action)	セリフ (Dialogue) / テロップ(T)	時間(秒)
1	[ワイドショット] カフェのテーブル席。向かい合って座る凜と誠をやや上方から捉える。テーブルにはコーヒーカップ。二人の間に微かな緊張感が漂っている。	凜と誠が互いにぎこちなく目を合わせ、コーヒーを一口飲む。	(BGM)	3
2	[パストショット] 誠。ややカメラ目線で、ぎこちない笑顔を向ける。表情は少し戸惑いと期待が入り混じっている。	誠が少し身を乗り出すように話す。	誠: 「はじめまして、誠です。マチアブって、やっぱりちょっと緊張しますね。」	4
3	[パストショット] 凜。穏やかな微笑みを返す。緊張を和らげようとしている。	凜が会釈するように軽く頷く。	凜: 「はじめまして、凜です。私もです。よろしくお願いします。」	3
4	[パストショット] 誠。プロフィールを思い出すように、やや上を向きながら。興味と疑問が入り混じった表情。	誠が少し考え込む振りを見せる。	誠: 「凜さんって、知財関係のお仕事されているってプロフにありましたど、具体的にはどんなお仕事をされてるんですか？」	5
5	[パストショット] 凜。少し照れたような、あるいは「やっぱり聞かれたか」というような、困ったような笑顔。	凜が軽く頭を搔く仕草を見る。	凜: 「弁理士・・・なんです。分かりますか？知らない人が多いかなって思って仕事の欄「知財関係」って書いてみました。」	6
6	[パストショット] 誠。「ああ！」と納得したように、目を少し見開く。	誠が手をポンと叩くような仕草。	誠: 「弁理士さん、知っていますよ！名前はくらいは…。ただ、具体的にはどんなお仕事なのかはあまり分かっておらず…すみません。」	4
7	[パストショット] 凜。頷き、少し身を乗り出す。プロとして説明しようとする真剣な表情。	凜が言葉を選ぶように少し間を置いてから話し始める。	凜: 「ええと。そうですねえ、発明とか、新しいデザインとか、会社のロゴとか…そういう『目に見えないアイデア』を守るのが仕事っていったらわかりやすいでしょうか。」	7
8	[パストショット] 誠。感心したように目を丸くするが、すぐに「自分には関係ない」といったように少し遠い目をする。	誠がゆっくりとコーヒーカップを置く。	誠: 「へえ、アイデアを守る…。すごい世界だ。僕には縁遠いかも…。」	5
9	[クローズアップ] 誠の横顔。ふと窓の外へ視線を移し、強い日差しに目を細める。	誠がゆっくりと顔を窓の方へ向ける。		2
10	[誠の視点] カフェの窓越しに見た、ギラギラと照りつけるアスファルトの道路。陽炎が揺れ、熱気が伝わってくるような描写。	陽炎が画面を横切る。	誠: 「うわ、今日は暑いですね。窓の外のアスファルト、絶対60度超えてますよ。」	4
11	[パストショット] 凜。誠の視線につられて、穏やかな表情で窓の外を見る。	凜が軽く頷く。	凜: 「本当ですね。もう夏みたい。」	2
12	[パストショット] 誠。再びテーブルに視線を戻し、考え込むように腕を組み、顎に手を当てる。	誠が眉間にシワを寄せ、真剣な表情になる。	誠: 「ああいう熱って、ただ空気中に放出されて、ヒートアイランドの原因になるだけで、もったいないなあっていつも思うんです。」	6
13	[イメージCG] アスファルトの道路。そこから放出される熱（赤い波紋）が、集められて「電気（青い稻妻マーク）」へと変換される様子をシンプルにアニメーションで表現。	熱エネルギーが電気エネルギーに変わるイメージ。	誠: 「あの熱を、どうにかして電気エネルギーに変えられたら…温暖化対策にもなるし、都市部で発電もできるし、一石二鳥なのになって。」	7
14	[パストショット] 誠。苦笑いしながら我に返り、肩をすくめる。	誠が頭の後ろに手を回す。	誠: 「…まあ、誰もやってないってことは、現実的には無理なんですかね。そんな発明が特許にできたら、一攫千金かな（笑）」	6
15	[クローズアップ] 凜の顔。誠とは対照的に、突然目が輝き、表情が一変する。知的好奇心と興奮が湧き上がってくる様子。	凜の顔がぱッと明るくなる。	(BGM: テンポアップ。知的な印象の曲へ)	2

16	[パストショット] 凜。前のめりになり、熱を帯びた早口で話し始める。ジェスチャーも交える。	凛が指を一本立て、興奮気味に説明する。	凛:「いえ、全然無理じゃないと思います！今、主流の『地中熱利用』はコストが課題でした。でも、もし…」	6
17	[イメージCG] アスファルトの断面図。黒いアスファルトの中に、小さな「熱電変換素子（光る粒子）」が効率よく練り込まれていく様子をアニメーションで表現。	素子がアスファルト内部で機能するイメージ。	凛:「アスファルト自体に『熱電変換素子』を効率よく練り込むことができれば…！あ、いや、待って、それだけじゃ弱い。」	6
18	[イメージCG] 道路上を車が走る。タイヤがアスファルトを踏みつける「圧力（青い波紋）」と、アスファルトから出る「熱（赤い波紋）」が同時に「電気（稻妻マーク）」に変換されるハイブリッドシステムを図示。	圧力と熱の同時変換を示すイメージ。	凛:「車両の『圧力』も同時にエネルギーに変えるハイブリッド型なら…！」	5
19	[パストショット] 誠。凛の突然の豹変と専門的な話に、驚きと引き込まれる様子が混じった表情。	誠が口を半開きにして、凛を見つめる。	誠:「え、あ、はい…ハイブリッド？」	3
20	[クローズアップ] 凜の真剣な横顔。瞳には強い光が宿り、確信に満ちた表情で話す。	凛が人差し指を立てて、力強く説明する。	凛:「そうです！『圧力』と『熱』、両方です！アスファルトの耐久性を保つ素子の配置が鍵ですけど…！」	6
21	[パストショット] 凜。ハッと我に返り、両手で顔を覆うように赤面する。急に普段の穏やかな表情に戻る。	凛が恥ずかしそうに顔を赤らめる。（BGM: 元の穏やかな曲に戻る）	凛:「…あ！ご、ごめんなさい！すごく素敵なアイデアだったから、つい仕事のクセで…。」	5
22	[クローズアップ] 誠の顔。一瞬ポカンとした後、目が輝き、感動したような表情になる。	誠が目をキラキラと輝かせる。	誠:「…かっこいい…！めちゃくちゃかっこいいですよ！」	4
23	[パストショット] 誠。興奮気味に、凛の目を見つめる。	誠が前のめりになって話す。	誠:「僕のほんやりした空想が、一瞬で『技術』になった…！さすが弁理士さんだ…！」	5
24	[ウェストショット] 照れる凛と、嬉しそうな誠。二人の間に、出会った時とは違う、良い雰囲気が生まれる。	凛が恥ずかしそうに顔を逸らし、誠が優しく見つめる。		3
25	[パストショット] 誠。凛の目を見て、さらに提案するような表情。	誠が笑顔で問いかける。	誠:「あの、凛さん。今のアイデアってここまで口で出てきているなら、実現できませんかね。なんだかワクワクしちゃって」	6
26	[クローズアップ] 凜の顔。誠の熱意に、最初はびっくりするものの、決意と喜びが入り混じった表情に変化する。	凛がびっくりしながらも微笑む。	凛:「ええ！本当ですか！！でもまあ、せっかく嬉しいっちょやってみますか！」	2
27	[ウェストショット] 凜と誠。互いに明るく笑い合う。二人の間に未来への希望が見える。	楽しそうに笑い合う二人。		2
28	[ワイドショット] カフェに後から誠の知り合いの大坂が入店。凛と話しているまことに気づく。	大坂は誠に話しかける。誠と凛が大坂に注目。	大坂:「あれ？誠？…ええと、彼女さん？」	8
29	[パストショット] 誠。凛の目を見て、ちょっと恥ずかしそうな表情。	誠が大坂に経緯を説明	誠:「いや、まだ彼女って訳ではないんだけど。。とにかくこの人は弁理士さん。さっき俺の何気ない一言からものすごいアイデアを出してくれたんだ。あの鉄板のように熱いアスファルトの熱、これを電気エネルギーに変換する技術！」	3
30	[パストショット] 大坂。最初は興味がありそうな表情をするも、すぐに何気ない表情に戻す。	大坂が誠に何気なく話を聞きかえす。	大坂:「そんなことできたら、誰かがやってそうだけど、一体どうやって？」	3
31	[パストショット] 誠。凛と目を見合わせる。	誠が大坂にさらに説明。	誠:「今、主流の『地中熱利用』はコストがかかりすぎるし、じゃあアスファルト自体に『熱電変換素子』を効率よく練り込むことができれば行けるんじゃないかなって。」	3
32	[パストショット] 大坂。できるだけ興味がなさそうに取り繕う感じ。	大坂がさらっと、一言を残し誠の肩をポンポンと叩きながら立ち去る。	大坂:「へえ、それは今までにはなかったかもな。確かにすごいアイデア。でも、2人のお邪魔になるので、俺はこの辺で。『まだ彼女って訳ではない』ね。がんばれよ。」	3

シーン1：同じカフェで

BGM: 緊迫感のある曲

Cut No.	画面構成 (Picture Description)	内容・動き (Action)	セリフ (Dialogue) / テロップ(T)	時間(秒)
33	[ワイドショット] 昼間と同じカフェのテーブル席だが、夜で照明が落ち、昼間とは打って変わって深刻な雰囲気が漂う。凜と誠がPCモニターを真剣な表情で見つめている。	二人の表情は硬い。		3
34	[クローズアップ] PCモニターの画面。大きく「公開特許公報」の文字が表示され、出願人「（謎の男の会社名）」、発明の名称「熱電変換舗装」の文字が読み取れる。	画面がフリックされ、内容が表示される。	誠: 「どういうことですか！？『公開特許公報』って…これ、僕らのアイデアじゃ…！」	4
35	[バストショット] 凜。モニターを見つめたまま、冷静だが唇を噛みしめるような悔しそうな表情。	凛がゆっくりと首を振る。	凜: やられました。私たちがカフェで初めて会った日の翌日に出願されています。 あの大坂さんという方に色々話しましたよね。彼が技術を理解していないとしても、例え断片だったとしても、専門家が彼らから伝え聞いたことから、技術内容を推測することは不可能ではありません。おそらく大坂さんは、私が弁理士であることを聞いて、誠さんが特許出願するかもと、急いで自分が知っている競合他社に売ったのかもしれません。	4
36	[バストショット] 誠。愕然とした表情で、目を大きく見開く。 ([フラッシュバック] 短く、カフェでの謎の男の冷たい目がインサートされる。)	誠が信じられないといったように頭を抱える。	誠: 「嘘だろ…！ちょっとうさんくさいやつだと思っていたけど、大坂がそんなことまでするなんて、なんてやつだ。…もう、ダメなんですか？僕たちのアイデア、盗られた…？」	6
37	[フルショット] 誠。テーブルに突っ伏すように、がっくりと肩を落とす。絶望感が漂う。	誠の背中が小さく見える。	凜: 残念ながらこういうことは起こります。実際、私の別のクライアントでも過去そういうことがありました。 人を信じるなどは言いません。でも、仕事のことは、不用意にしゃべらないことです。	2
38	[クローズアップ] 凜の顔。モニターを睨みつける鋭い目。マウスを激しくクリックする指先を強調。	凜がマウスを力強く握りしめる。 (BGM: 逆転を示唆する力強い曲へ)	凜: 「…誠さん、まだ諦めるのは早いです。」	4
39	[クローズアップ] 誠の顔。はっと顔を上げ、凜を見る。目に微かな希望が宿る。	誠の目が大きく見開かれる。	誠: 「え…？」	1
40	[バストショット] 凜。キッと前を向き、完全にプロの「弁理士」の顔になつていいる。瞳に強い光。	凜が誠に向き直り、力強く話す。	凜: 「特許は『早い者勝ち』です。でも、ただ早ければいいわけじゃない。」	4
41	[クローズアップ] PCモニターの画面。「特許請求の範囲」の部分を拡大表示。『アスファルトに熱電変換素子を練り込むことを特徴とする舗装』というシンプルな記載を強調。	凜(Off): 「彼らの出願内容、読みました。『アスファルトに熱電変換素子を練り込む』…これだけです。」	凜: 「彼らの出願内容、読みました。『アスファルトに熱電変換素子を練り込む』…これだけです。」	
42	[バストショット] 誠。まだ納得できないような、困惑した表情。	誠が首を傾げる。	誠: 「それだけって…十分じゃないですか。」	2
43	[クローズアップ] 凜の顔。力強く首を横に振る。	凜の表情から一切の迷いがない。	凜: 「甘い。これじゃ『発電効率が悪い』という課題を解決できません。私たちのアイデアの核心（コア）は？」	6
44	[クローズアップ] 誠の顔。ハッとして、あの日の凜の言葉を思い出す。 ([フラッシュバック] 短く、カフェでの凜の「ハイブリッド型なら！」という真剣な顔がインサートされる。)	誠の目に閃きが宿る。 (SE: 閃き音)	誠: 「…『圧力』と『熱』の…ハイブリッド…！」	4
45	[バストショット] 凜。自信に満ちた、堂々とした表情。指を立てて説明する。	凜が力強く頷く。	凜: 「そう！そして『耐久性を担保する素子の配置』！彼らの権利（特許請求の範囲）は、私たちの核心技術をカバーできていない。」	7
46	[イメージCG] 従来技術（低い土台のようなグレーのブロック）の上に、自分たちの特許（「ハイブリッド」と書かれた、より高く、光るブロック）が乗る様子を図解。	ブロックが積み重ねられるアニメーション。	凜: 「彼らの出願内容は、従来にもあったような技術の羅列にすぎません。これでは権利にはならないように思います。」	6

47	[バストショット] 誠。徐々に意味を理解し、希望の光が見えてくる表情。	誠が凜の言葉に引き込まれていく。	誠: 「ど、どういうことですか？」	2
48	[クローズアップ] 凜のキリッとした横顔。自信と決意に満ちた、プロフェッショナルの表情を強調。	凜が力強く拳を握る。	凜: 「特許をとるためにには、新規性や進歩性が必要なんですが、彼らの出願内容はすでに考えられてきたような技術にすぎないんです。だから、特許庁で審査がなされたとしても拒絶されて特許は認められないと思います。だから彼らの特許出願が、これから私たちが出願するアイデアの障害となることはないと思います。私たちのアイデアは、彼らの特許出願にあるようないままでの技術にはない「新しい技術」ですし、さらにそれを「進歩」させたものです。私たちのアイデアには、今まで実現できなかった新しい技術の『核心』がガツチリ押さえられています。だからきっと大丈夫です！ここからが弁理士の腕の見せ所です…！」	10
49	<p>[モンタージュ] 複数のカットを素早く繋ぎ合わせる。</p> <p>①猛スピードでキーボードを打つ凜の手元。</p> <p>②散乱した資料の中から必要な情報を必死で探す誠の手元。</p> <p>③夜が明け、カフェの窓から朝日が差し込む様子。</p> <p>④PC画面を囲んで、真剣な表情で議論し、笑顔で頷き合う凜と誠。</p> <p>(BGM: テンポの速い、作業・進行感のある曲)</p>	二人が徹夜で集中して作業している様子。徐々に形になっていく資料。		8

シーン2：5年後・公園（昼）

BGM: 幸せで穏やかな曲へ / 公園の環境音

Cut No.	画面構成 (Picture Description)	内容・動き (Action)	セリフ (Dialogue) / テロップ(T)	時間 (秒)
50	[ワイドショット] 5年後の晴れた公園。凛と誠、そして二人の間を元気に走る3歳の子供。明るく開放的な雰囲気。	子供が先に駆け出し、パパとママが追いかける。	子供: 「パパ、ママ、あっち！」	4
51	[バストショット] 誠。笑顔で子供の方を向き、優しく語りかける。	誠が楽しそうに子供を追う。	誠: 「おー、待て待てー（笑）」	2
52	[ウェストショット] 凛と誠。二人並んで、子供を見守る幸せそうな表情。	凛が誠の腕に優しく触れる。	凛: 「ふふ。あの日、誠さんが言ってくれたアイデア、覚えてる？」	4
53	[バストショット] 誠。凜の方を見て、優しい笑顔。	誠が凜の目を見つめる。	誠: 「もちろん。アスファルトのやつだろ？まさか、あんなことになるとはね。あの時、凜さんがいなかったら、絶対実現してなかっただと思う。それにあんなことがあったから僕たちの今もあるような気がする。」	10

シーン3：現在・都市部

BGM: 壮大で未来的な曲へ

Cut No.	画面構成 (Picture Description)	内容・動き (Action)	セリフ (Dialogue) / テロップ(T)	時間(秒)
54	[ワイドショット] 最新技術で舗装された都市部の道路。道路脇には「熱・圧力ハイブリッド発電舗装 実証実験エリア」と書かれた真新しい看板が立っている。車がスムーズに通行する様子。	道路がピカピカと輝いている。		4
55	[スローモーション] 美しく舗装された道路を、車がゆっくりと走り抜ける。路面が微かに光を放っているように見える。	車が静かに道路を滑走する。	凜(ナレーション): 「アイデアは、生まれた瞬間から狙われています。それを守り抜き、育てるのが、私たちの仕事。」	6
56	[クローズアップ] 「熱・圧力ハイブリッド発電舗装 実証実験エリア」の看板。特に「ハイブリッド発電舗装」の文字にピントが合う。	看板の文字がゆっくりとクローズアップされる。	誠(ナレーション): 「弁理士は、未来への道を舗装する人だ。」	4
57	[暗転] 真っ黒な画面に、白いゴシック体で力強くテロップが表示される。		(テロップ): 【そのアイデア、守れま】 (SE: キラリという効果音)	3
58	[暗転] 真っ黒な画面に、白いゴシック体で力強くテロップが表示される。		(テロップ): 【未来をカタチにする仕事。弁理士】 (BGM: フェードアウトし、余韻を残して終了)	3

## 評価基準

評価項目	具体的な評価内容	配点
技術評価	1.制作能力（事業目的・趣旨の理解度、創意工夫等） ・事業目的・趣旨等を理解した動画制作が提案されているか ・提案された動画制作に創意工夫がみられるか。	40
	2.運営能力 ・当該業務の遂行に耐えうる組織である ・組織として動画制作業務を一定期間以上経験している	10
	3.類似運営業務の経験 ・同等事業の実績が豊富である ・過去に当会または官公庁との契約実績がある	10
価格評価	価格	40

これまでいただいた質問をまとめましたので、ご参考ください。

Q 1. 人物は凜・誠・子ども（5年後）・大坂の4名か。また、想定されている登場人物は演技経験者か。

A 1. 凜・誠・大坂（名前は仮）は確定。子供は可能であればという程度。登場人物は演技未経験者。

Q 2. 撮影日数1日とする予定とあるが、カフェ以外の撮影シーン（5年後公園）、ナレーション収録について、別で撮影・収録日を1日もしくは1日半程度を設けることは可能か。

A 2. 1日としているのは、その方が予算的に下げられると想定したため。予算内で収まるようであれば収録日を増やすことは可能。

Q 3. 撮影日数を1日に収めることを優先する場合、カフェ以外のシーン（5年後公園・カフェの窓越しのシーンなど）のシナリオを変更することは可能か。（同一カフェでの撮影に変更・夜のシーンなどの時間帯演出の変更、動画素材を使ったインサートで代替）

A 3. 適宜変更可能。

Q 4. 「当該ターゲット層を弁理士会のウェブページ内にとどめ、」とあるが、当事業の動画のウェブページ内での設置場所や、ページからの離脱を防ぐ現状行なっている施策などあるか。

A 4. 現状では未定。

Q 5. 視聴者の「完全視聴」を促すために、とあるが、数値目標（視聴完了率等）は設定されているか。

A 5. 特に数値目標は設定していないが、同尺コンテンツの平均の数値を上回るこができるれば、次回作制作の余地を残せるのでそこを目標にしたい。

Q 6. イメージ作成の際に、参考となるような資料の支給は可能か。

A 6. 可能。

Q 7. イメージCGを1からCGを起こすと予算、納期がかさんでしまうため、Adobeストックなどのストックフォトで代替できそうなものは使用可能か。

A 7. イメージCGは、発明品の技術内容を分かりやすく解説する模式的なものを想定している。技術内容が分かるものであればストックフォト等で代替してもよい。また、生成AIで作成できるのであればそれが望ましい。

Q 8. 現在・都市部のシーンは、フル CG で制作するということか。

A 8. シナリオに示したようなシーンが表現できるのであれば、撮影した映像で構わない。

Q 9. 提供されたシナリオドラフトをベースに撮影条件や制約を踏まえてどれだけ整理・ブラッシュアップできているかといった「シナリオの完成度」と、シナリオ自体の大きな改変ではなく、演出・撮影・編集面での工夫や表現提案であればどちらが重視されるか。

A 9. シナリオに関しては、不自然さをなくすためにセリフやシーンを修正する程度なら構わないが、ストーリーを大きく変更することはできない。どちらかというと後者の「演出・撮影・編集面での工夫や表現提案」、例えばダイナミックなカット割りや、カラーグレーディングによる心情表現、音響効果等によって、「弁理士という職業を魅力的に紹介する」という本動画の制作趣旨を実現したい。

Q 10. 予算の制約を踏まえ、シナリオ原案、出演者およびロケーション（前編 S1 カフェ 東京都渋谷区）については、原則として当会が準備する予定とする」と記載されているが、小道具などの美術品、出演者のメイクや衣装についても弁理士会で対応予定か。

A 10. 全て弁理士会側で対応。

Q 11. 撮影場所について、「ロケーション（カフェ）は原則として当会が準備」とあるが、制作会社側で「移動時間を短縮でき、かつ撮影許可が円滑なスタジオ等の代替地」を提案・手配することは可能か。

A 11. 可能。